

## MV-22オスプレイの配備等に関する要請書

米海兵隊岩国航空基地を抱える山口県及び周辺市町は、基地周辺住民の安全で平穏な生活を確保するために、航空機騒音、事故への不安等、基地に起因する諸課題の解決に向け取り組んでいる。

こうした中、7月1日、森本防衛大臣が来県され、米国政府から日本政府に対し、垂直離着陸機MV-22オスプレイを沖縄県の普天間飛行場へ配備するとの接受国通報がなされたことと、岩国飛行場で7月下旬に機体を陸揚げするとのプレスリリースが出されたことについて説明がなされたが、県も岩国市も「安全性が確認できないうちに岩国基地での陸揚げ等を行うことには反対である」と申し上げた。

オスプレイについては、本年4月のモロッコでのMV-22の墜落事故に続き、6月14日にはCV-22が米国フロリダ州でも墜落事故を起こしているが、いずれの事故も、原因等の調査が未だ継続中であり、再発防止のための措置も何ら講じられていないなど、その安全性に大きな懸念がある。

それにもかかわらず、接受国通報の翌々日の7月1日には、早くもMV-22オスプレイ12機を積載した輸送船が米国を出航していたとのことであり、安全性の確認がされないまま、このようになし崩し的に手続が進められていることは、誠に遺憾である。

また、沖縄の普天間基地に配備後は、月2、3日間岩国基地で運用されるとされているが、安全性が確認される前に岩国基地でのオスプレイの陸揚げ・整備、普天間基地への配備、その後の飛行訓練等が行われることは、断じて認めることができない。

については、政府におかれては、住民の安全確保を最優先する立場に立ち、まずは事故原因の究明や安全性の確認を行った上で、関係自治体にしっかり説明し、その理解を得るべきであり、それがなされる前にはMV-22オスプレイの岩国基地への先行搬入を進めないという姿勢を明らかにし、その旨を米側に申し入れるよう要請する。

平成24年7月10日

外務大臣 玄 葉 光一郎  
防衛大臣 森 本 敏 様

山口県基地関係県市町連絡協議会

会 長 山口県知事 二 井 関 成  
副会長 岩 国 市 長 福 田 良 彦  
柳 井 市 長 井 原 健 太 郎  
周防大島町長 椎 木 巧  
和 木 町 長 古 木 哲 夫